

知的障がい教育における性教育～思春期入り口の小学部男子に焦点をあてて～

後藤 純子 (熊本大学教育学部附属特別支援学校養護教諭)
久保 昌子 (熊本大学大学院教育学研究科教授)

研究目的
適切な時期に、心と体の変化の学習を適切に行うことで、安心して思春期を迎えることができ、他者、特に異性との適切な関わりについて学びを深めることができる。

みんなが笑顔でいるためには、どうしたらいいのかな？
せいこちゃん きょうすけくん いくみせんせい

知的障がい教育における性教育の授業づくりのポイント

児童の変容及び成果

1 体験的な活動

パーソナルスペースは、「なかよしスペース」！腕1本の距離だよ

ひげはここにはえるのかな？(実際に毛を貼りつける活動)

(パンツを指さして)ここがはずかしいよ

(肌着とパンツでカーテンから出てきた等身大パネルを見て)「○」？「はずかしい」？……どっちかな？

なじみやすいキーワード

等身大パネル

“なかよしスペース”という言葉を使用できた。

「○」と「はずかしい」の二択にすることで、“はずかしい”ことに反応していた。

等身大パネルで興味・関心を持ち授業に参加できた。

2 タブレット・スマートボードの活用

タッチして正解すると“ピンポン！”と効果音とアニメーション

ゲーム感覚で楽しく学ぶ

さわって○？×？

どうして、いくみ先生は怒っているのかな？

興味をひくキャラクターが画面に登場

クイズ形式で、プライベートゾーンの約束と役割を教える

(イラストでヒントを用いて)だれに、なにをあげているのかな？

テレビからスマートボードに変更することで見えやすくし、席の配置も工夫したことで、より集中して参加できた。

興味をひくキャラクターやICTを活用し、体験的な活動で、楽しみながら授業に参加した。

3 学びを深めるために

ワークシートの工夫

Aグループ

Bグループ

理由まで記入して学習のねらいを再度定着

○×の二択で記入(実態に応じて)

繰り返し、振り返る(基礎基本の習得へ)

授業内

家庭

次の授業で復習

ファイルを用いて学びの共有化

前時の学習を復習することで、学習の定着状況を把握できた。

ファイルで学びの共有化をしたことで、キーワードの定着や家庭でのやり取りにつながった。

4 保護者と教員とのチームアプローチ

保護者のニーズを語り合う／ざっくばらんに／情報交換の場としても。

授業づくり及び評価の視点も踏まえて実施

保護者との思春期茶話会

保護者のニーズをもとに…

新たな心身の変化がきた時のため、心構えのための授業

授業内容を精選し、使用する言葉を整理

心配しなくて大丈夫。「大人に近づいたしるし」です。

精通の指導を実施(同性の担任にて)

茶話会により、保護者からのニーズ・要望を踏まえた授業づくりができた。

精通に関しては中学部の指導の実際も踏まえたうえで、男性教員が授業をし、児童が自分のこととして考えるようになった。

チームで取り組み、S研でアイデアを共有したことで、授業内容の精選・教材研究を深めることができた。

研究計画

対象：小学部4～6年生男子8名

授業内容 【体育(保健領域)の時間に実施】

「すてきなおいさんになろう」シリーズ：計6回

6月：保護者に事前アンケート調査・児童への個別の実態調査

授業1 思春期の体の変化 パート1

7月：(夏休み前)保護者との思春期茶話会

9月：授業2 プライベートゾーン パート1(男女合同)

10月：授業3 プライベートゾーン パート2(〃)

11月：授業4 異性との距離「なかよしスペース」(〃)

12月：授業5 マナーについて(〃)

(冬休み前)保護者との思春期茶話会

1月：授業6 思春期の体の変化 パート2[精通]

共同研究者より

校内授業研究会で性教育に対する教員の共通理解を図った。詳細、研究紀要参照。

まとめ(課題と今後に向けて)

◆児童の実態・本シリーズをとおしての長期目標及び評価の観点◆

	児童の実態	長期目標	評価の観点
Aグループ	・適宜集中することの声かけが必要。(席の配置の工夫) ・簡単な単語や指差し、○×で意思表示をすることはできる。	適切な行動や約束事について、○×で理解できる。 ルールの定着 (プライベートゾーンの約束、なかよしスペース等)	知識・技能 ：○×でルールを答えることができる。変化する場所・事柄を指差し等で答えることができる。 思考・判断・表現 ：理由づけのキーワード等を二択等で選ぶことができる。 主体的に学習に取り組む態度 ：プライベートゾーンの約束やマナーを意識して、適切な行動を選択しようとする。
Bグループ	・促さなくても授業を受けることができ、質問することもある。 ・言葉や文字で自分の考えを表現することができる。	適切な行動や約束事、理由等を考え表現し、実践できる。 理由を考え行動に還元	知識・技能 ：ルールや変化する場所や事柄を答えることができる。 思考・判断・表現 ：理由(恥ずかしい、されたいや、大切な所等)について等、言葉で自分の考えを表現したり、文字で記入することができる。 主体的に学習に取り組む態度 ：プライベートゾーンの約束やマナーを意識して、適切な行動を選択することができる。

- ◆直近の学習は記憶しているが、学習が積み重なると過去の学習を忘れる傾向が見られたので、**繰り返しの学習が必要**である。
- ◆個々の心身の変化に応じて、**学習と関連して個別指導・支援**が必要である。
- ◆知識としてルールは入っても、**行動場面で応用がききにくい**ため、教師や家族が適宜、性教育での指導内容を踏まえて関わる。
- ◆**繰り返しの学習を経年的に実施**することで**長期の変容**を見ていくことも重要である。
- ◆小学部から高等部まで系統的な指導・支援を行う必要がある。